

# 令和8年度 附属竹早中学校 学校経営計画

## 1 附属学校の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実践研究の拠点としての役割
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- 地域の学校と連携して教育・研究を推し進める役割

## 2 東京学芸大学附属学校教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り、自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

## 3 教育目標

- 自ら求め、考え、表現し、実践できる生徒を育てる。
- 他人の立場や意思を尊重できる、視野の広い生徒を育てる。
- 心身ともに明るくたくましい生徒を育てる。

## 4 育てたい幼児、児童、生徒像

- 課題遂行能力を持った生徒
- 豊かな心と感性を持った生徒
- 創造性・独創性豊かな生徒
- 自己表現できる生徒
- 多様性を認め、他者を受容できる生徒

## 5 中期経営目標

- 幼小中連携教育の一層の充実のもとに、他者への理解を深め、多様性を尊重し、互いを高め合う姿勢を育む教育の実践を目指す。
- 令和2年度より開始した「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の成果に基づき、企業や自治体など学外との連携を進めながら未来の学校の実装化を目指す。
- 多様性を生かし、より良い共生の在り方を模索する生徒を育むための視点の検討とその

実践の開発に取り組む。

- 先端教育人材育成推進機構・教育インキュベーション推進機構等、大学の各種プロジェクトと連携をとりながら、先導的な教育研究を進める。
- 働き方改革への意識を高め、本校の特色に対応する働き方改革について検討する。
- 保護者と信頼関係を構築し、生徒の安全を守ることを第一に学校運営を行う。
- 教員間の連携を重視し、学校全体で生徒の指導に取り組む。

## 6 年度経営目標

### (1) 最重点目標

- ◎いじめを起こさない体制の構築、ならびにいじめが起こった場合の学校全体での指導・対応を一層強化する。
- ◎教職員の働き方改革を推進し、具体的な対応を検討するとともに、研究に意欲の持てる環境作りに努める。
- ◎「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」を一層推進させ、教科教育及び生徒指導に生かしていく。
- ◎多様性 (diversity)、公正性 (equity)、包括性 (inclusion) を推進し、みんなで成長できる学校、みんなで幸せになれる学校の実現に努める。

### (2) 学校運営の目標

- ◎いじめを起こさない体制ならびにいじめが起こった場合の学校全体での指導・対応を一層強化する。
- 生徒一人一人の状況を見取り、変化を示すわずかなサインを見逃さないように努める。
- 生徒が教員を信頼して相談し、指導を受けることができる関係性の構築をより一層確かなものにし、保護者と学校とのより良い信頼関係を構築する。
- 特別な支援を要する生徒等に対応するために学外とも連携した支援体制の構築を進める。
- ◎教職員の働き方改革を推進し、具体的な対応を検討するとともに、研究に意欲の持てる環境作りに努める。
- オンラインでの情報発信を充実させ、本校の特色や研究成果を的確に発信する。

### (2) 教育活動の目標

- ◎多様性 (diversity)、公正性 (equity)、包括性 (inclusion) を推進し、みんなで成長できる学校、みんなで幸せになれる学校の実現に努める。
- ◎「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」を一層推進させ、教科教育及び生徒指導に生かしていく。
- さまざまなことに興味を持ち主体的に学ぶ態度や主体的に判断行動し自己を律する力を育成する。
- 運動会、文化研究発表会、合唱コンクールの行事等において集団で協力して作品を作り

出す喜びを体験させ、他者との協調、関わりを持てる生徒を育てる。

- 総合的学習（自由研究・卒業研究）を通して継続して考察し、探究する態度を養う。
- 部活動・委員会活動を通して生徒の思考力・判断力を高める。
- 進路を人生と向き合うことの一つと捉えさせ、各学年における進路指導を適切に行う。
- 日常生活の基本的な生活習慣および感染症感染防止の基本的な習慣を身につけさせる。
- ◎インターネット、SNSの適切な使用について指導を強化する。
- ◎公共心や奉仕的態度を育成し、地域の方々と共に生活している意識を育む。

### （3）研究活動の目標

- ◎幼少中連携教育・研究について、「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の第二ステージにおける幼小中連携研究の研究主題に取り組み、公開研究会を開催する。
- 多様性の研究の成果に基づく実践を深めるとともに、実践研究の成果を発信する。
- 大学との連携のもと、長期研修制度（各附属学校で年間2名まで連携教育委員会の現職の教員の研修を受け入れ、大学教員がメンターとしてフォローする。）の実施について引き続き検討する。
- ◎学会や研究会に所属し、最新の知見を得るとともに、自身の指導実践や研究の成果を発表する。

### （4）学生の教育・支援活動の目標

- ◎教科及び教科教育に関する知識理解の徹底と実践的指導力の向上を目指す。
- ◎現在の教育現場の諸問題に適応できるような指導を行う。
- 生徒が主体的に参加することができる授業実践のための的確な事前事後の指導を行う。
- 実習生と共に討論し考察して教科及び学習に関する考察と理解を深化させる。
- 学生が教育実習の経験の中で、自身の教職志向や適性を高めていけるような指導を実施する。

### （5）社会貢献活動の目標

- ◎「地域のモデル校」「地域の研究拠点校」としての役割を果たしていく。
- 教科書・教材の編集、執筆を通して中学校の教育に貢献する。
- 国際交流活動等へ積極的に参加する。